

| | | |
|--|-------------------------------|--|
|  | <h1>七松小学校</h1> <h1>学校だより</h1> | <p>令和3年度 12月号</p> <p>尼崎市立七松小学校 校長 江上佳宏</p> |
|--|-------------------------------|--|



☆ホームページアドレス <http://www.ama-net.ed.jp/school/E31/>

感動に満ちた深い学びの実現 ～確かな学力の育成～

学校の役割を考えた時、子どもたちに「生きる力」を育むことが大きな使命と考えます。「生きる力」には、確かな学力・豊かな心・健やかな体をバランスよく育成する。加えて自らの夢や志を実現できる資質能力も含まれます。

学力向上のため、どこの小学校でも研究を行っています。本校では、研究テーマを「自ら学び続ける子ども」とし、サブテーマを対話を通して、思考力・表現力を高める授業を創るとしています。

小学校の教員は、一般的に、中学校等とは異なり、学級担任制で、事前に準備をしっかり行い、授業を行ったとしても、普通は1回限りのものとなります。小学校高学年、中学校・高等学校は、教科担任制ですので、反省や更なる工夫ができることもあります。いずれにせよ、私たち教職員は、「確かな学力」を育成するため、常に専門性と実践的指導力が求められているのです。

七松小学校の子どもたちは、望ましい学習規律・学習習慣が身につけており、基礎的・基本的な知識・技能が定着していると考えます。一例ですが、過去に勤務した学校では、有名な学識経験者を講師に迎え、年に1度は、県下の教職員を参加者に集め、授業公開を行い、大々的な研究発表大会を行ってきました。(今は、コロナ禍でむずかしいと思いますが…)そこで外部の参加者や、学識経験者から大変すばらしい授業(実践)であったとお褒めをいただいたことを思い出しますが、その学校の学力が高いかといえば、そうとは言えなかったのです。思い起こせば、公開された授業が特別もので、平素から取り組んできた授業ではなかったように思います。

七松小学校では、特別な研究大会は実施していません。むしろ、平素の授業を教育委員会等に継続的に参観いただいています。

子どもたちが、いきいきと学習活動に取り組み、感動に満ちた深い学びを実現するには、ただ、「わからせる」ための授業であったり、知識の伝達に終わっているような授業ではありません。当然、「わからない」をそのままにしない。そして、思考力・判断力・表現力等を育成するため、要約・論述・スピーチといった言語活動を充実させ、子どものわかる喜びを大切に、知的好奇心をもって、互いに認め合いながら、主体的に学習に取り組む学習集団づくりに努めています。

最後になりましたが、令和3年も残り約1ヶ月となりました。年末年始においてもコロナが収束し、保護者や地域の皆様にとって、素晴らしい年になりますように…そして、引き続き本校教育にご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。1年間ありがとうございました。